

お口の健康

第16回 親知らずは抜かなければいけないの？



親知らずとは、一般に20歳頃から生えてくる一番奥の大白歯（第三大白歯）のことで、上下左右で4本生える可能性があります。しかし個人差があり、人によっては1本も生えないこともあります。

親知らずを抜くか抜かないかを判断するときには、腫れや痛みなどのトラブルが起きたときに、親知らずが歯としての機能（咬む）をしているか？その後歯磨きがきちんと行える場所に歯があるか？などが大きな判断基準になります。痛くなる場合の多くは、親知らずが斜めに傾いて手前の歯にぶつかったり、顎の内部で横になっていたりと、きちんと生えないその歯の位置が問題になります。そして、その親知らずの周囲に汚れが蓄積して、菌が炎症を起こして腫れたり、親知らず自体が虫歯になって痛みが出ることが多いのです。

親知らずを抜歯した方が良いと判断されるのは、次のような事が考えられるときです。

- ・ 親知らずの腫れや痛みが繰り返される時
- ・ 物が挟まりやすく、親知らずの手前の歯が虫歯や歯周病になりやすいとき
- ・ 歯並びに影響が出る場合 等です。

逆に親知らずを抜かなくても良いと判断する場合は次のようなときです。

- ・ 痛みや腫れなどの問題を起こしていない場合

・ 腫れたことがあっても、傾かないで正常に生えてきている場合

・ 将来的に利用できそうな場合

手前の歯がダメになり抜歯しても、親知らずの状態が良ければ土台として利用してブリッジにできることがあります。または、別の抜けてしまった歯の部分へ移植できることもあります。

親知らずは、全てを抜いてしまうわけではありません。痛みや腫れを起こさない状態、他の歯に影響を与えない状態であれば、抜かずにそのまま様子を見ることになります。

しかし、親知らずが正常に生えていても、一番奥にあることもあり、うまくブラッシングできずに虫歯になることも多いようです。親知らず自体の虫歯で抜歯することが多いのも事実です。磨きにくい箇所程ブラッシングは十分にいたしましょう。



(矢印) 右下の親知らず
このように斜めに生えていると、磨き難く虫歯になり易い

湯沢市・雄勝郡
歯科医師会

ホームページ：
<http://www.yutopia.or.jp/~yoda/>